

経営比較分析表（平成28年度決算）

山形県高島町 公立高島病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド透訓	救臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
24,073	9,305	第1種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

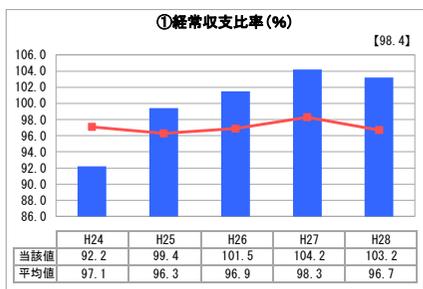
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
89	41	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	130
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
89	41	130

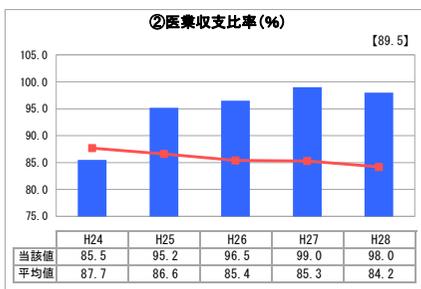
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

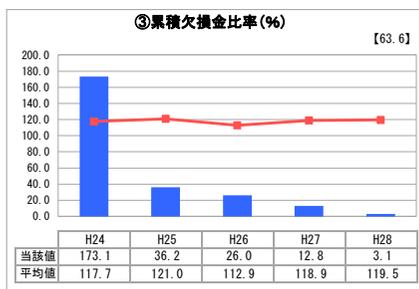
1. 経営の健全性・効率性



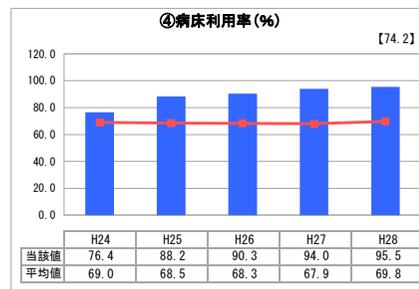
「経常損益」



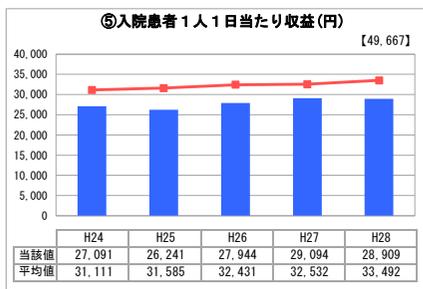
「医業損益」



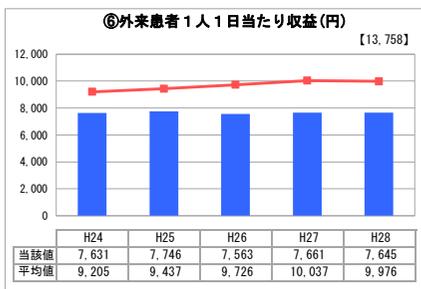
「累積欠損」



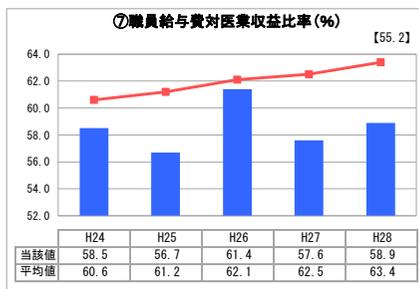
「施設の効率性」



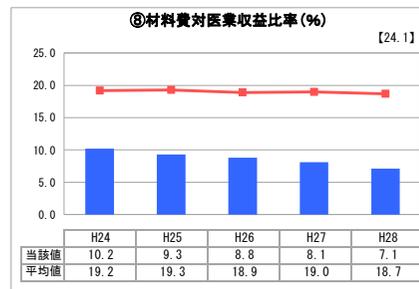
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」



「費用の効率性①」



「費用の効率性②」

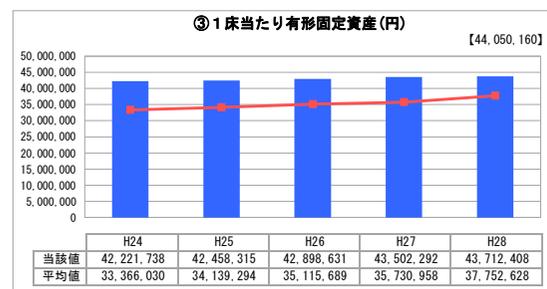
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は町唯一の病院として、また基幹病院との役割分担を踏まえ、入院医療については、急性期から慢性期までの病床機能を維持し幅広く対応していく。外来医療については、現在の8科体制を維持し、人工透析医療や在宅医療等、町民の求める医療を適切に提供していく。救急医療については採算の是非は問わず今後も堅持していく。さらに町民の健康を守る立場から保健衛生への協力や健診等の予防医療に積極的に取り組んでいく。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

病床利用率については地域包括ケア病床の導入等により、平成27年度と比べ1.5%上昇しており毎年高い水準を維持している。
 経常収支比率、医業収支比率については、前記の理由から入院収益が増加したが、外来患者数の減少により外来収益が減少したため、昨年に比べそれぞれ1.0%減少している。なお平均値との比較については平成25年度よりそれぞれ上回っている状況となっている。
 累積欠損金については平成26年度より経常黒字を達成しており毎年度減少している。
 職員給与比率及び材料費対医業収益比率については対前年比でそれぞれ増減はあるものの、平均値と比べ大きく改善される。

2. 老朽化の状況について

当院は平成8年6月に移転新築し、約20年が経過しており、医療機器や熱源機器を中心に老朽化が進んできている。
 医療機器及び建物等の整備については、有利な補助や経済対策等の資金を積極的に活用し、一般会計からの支援を含め計画的に必要最小限の範囲で整備していく予定である。

全体総括

平成28年度については前改革プランを継承した新改革プランの初年度となることから、プランに掲げた目標達成に向け、限られた職員体制と診療体制の中で質の良い医療を提供するよう努めてきた。
 平成28年度の成績については、地域包括ケア病床の導入や病床利用率の高水準維持により、入院患者及び入院収益が増加したものの、外来収益及び外来患者の減少により医業収益が平成27年度に比べ減少したが、費用については平成26年度に比べ増加したが、経常収支比率は平成26年度以降、3年連続で1.0以上となり経常黒字を達成しており、次年度以降継続に向け更なる経営努力を行う。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。